



## 『境界線を超える旅：池明観自伝』

池明観 岩波書店

本館	請求記号：K/289.2/C41	資料ID：109743252
神田分館	請求記号： /289.2/C41 [Knowledge Base展示中]	資料ID：108306739

### 国際コミュニケーション学部准教授 網野 房子

本書は、1970年代から80年代の韓国の軍事政権下、T・K生の筆名で日本の雑誌『世界』に連載を続け、民主化運動を支えた池明観先生の自伝です。私は、池先生と、自身の韓国での最初の長期調査において初めてお目にかかり、それ以来、先生のご研究や生き方から大きな影響を受けてきました。私はこの書をよくゼミのテキストとして使わせていただいています。日本の植民地支配、解放、北からの南下、朝鮮戦争、南北分断、4月学生革命、軍事政権時代、光州事件、民主化の幕開け、そして日韓交流の時代へと、池先生は、激動する朝鮮近現代史のただなかで生きてこられました。ゼミでは先生の人生をそのお人柄とともに紹介しながら、池明観という人間と朝鮮半島の人々の歴史とを、学生たちに深く知ってもらいたいと願ってきました。本書の最初のページには、私が知る茶目っ気のある笑顔の先生の写真が載せられています。この笑顔からは、本書に記された、先生の幼少期からの長く壮絶な苦難の道のりを、全く想像することはできませんでした。

本書は何よりも私に、人間が人間として生きることとはどのようなことなのかを教えてください。キリスト教思想や信仰、文学というものを、人間の生き方の中で教えてくれる書でもあります。そして、本書を読み返すたび、必ず新たに何かを教えられ、勇気づけられてきました。韓国の映画や音楽、文学に出会い韓国に興味を持ち始めた学生に、本書を強く推薦したいと思います。